

私は八ツ場ダム計画の中止と撤回を要求します

誰のためのダム計画か

3・11 福島原発事故で国民が判ったことは『この国の政治は私たち国民の為にあるのではなく、役人や議員や大企業の利益のためにある』ということと、『そういう事態をマスコミは正確に伝えていなかった』ということでした。

いま、多くの人の、大きな犠牲の上に、この国中で『反原発』の声が高まっています。いや、原発だけでなく、しかし原発と同様に、ダムについても『危険だ、いらぬ』という住民の声が各地で起こっています。しかし、官僚も、知事、市長など自治体の長も、また、土建会社を経営しながら議員をやっている人たちも、ダム建設推進の政策を変えようとはしません。八ツ場ダムの件でも、私たちの主張と国側の意見との違いは原発問題と似ているところが多々あります。新聞報道によれば、八ツ場ダム工事の関連事業を受注した20社以上の企業から、群馬県の自民党支部へ年間数百億円の献金があった、とされています。この記事では、献金を受けた側として、小淵とか中曽根とか、支部長の実名が出ていますが、この議員達が『事実無根』とか『名誉毀損』とかで訴えを起こしたという事実は全くありません。巨大なカネが動くダム工事では、献金もまた巨額です。私たちはこの事実だけでも、大きな声をあげる必要があります。

そもそも、八ツ場ダムを造るという計画は、1947年（終戦後2年目）に、キャサリン台風で利根川の堤防が決壊して、関東の6都県で約1100人が亡くなったことから、上流のダム郡で、その後の洪水を防ごうとしたのが始まりです。当時は、さらに10基以上のダムが必要とされていましたが、八ツ場以外の計画はなく、これでは、国の言う『洪水対策』とは何なのだ、ということになります。洪水対策と称するダムが50年以上も着工されないことは、本当に洪水対策なのか、何年後の住民を守ろうとしているのか、ということになります。マニフェストで『ダム中止』と言われたあとになって、急に『ダム推進』がしゃしゃり出てきた感じです。

さて、いま問題になっている検討報告書では、私達が吹き出してしまふような無理な数字あわせで、ダム建設の正しさをでっち上げて主張しているようですが、この際、何が何でも、ダムを造ってしまおうという姿勢がミエミエで、地域に住む人の都合とか、それで幸福な生活が得られるのか、ということについては、殆ど考慮されていないように見えます。

一例は、私の住んでいる東京都の石原知事ですが、彼は子供でも騙されないような幼稚な理論でダム建設推進を主張しています。これは石原への部下の進言が悪いのか、石原が不勉強なのか、こんな主張しか出来ない知事が、多くの人々が安全に暮らしていく為の政策を支配することは、住民にとって、大変に危険で不幸なことです。

浅間山噴火の防災対策がないダム計画

八ツ場ダムの大きな危険性のひとつに『浅間山の噴火』があります。文献によれば、天明3年（1783年）の噴火では、現在の長野原町で243人の死者が出ただけでなく、下流の洪

川市でも157人の犠牲者が出てます。八ツ場ダムは地震多発地帯に囲まれ、地滑り地帯も多く、浅間山から20kmしか離れていません。ここで大噴火が起こったら八ツ場ダムはどうなるのでしょうか。

『天明3年浅間山噴火史』によれば、『長野原地区に流れ込んだ火砕流は、吾妻溪谷では最も狭い猿岩のあたりで岩石、樹木、家屋などがつまり、逆流した』とあります。八ツ場ダムができた後、ダム湖に大量の火砕流が流れ込めば、一時的に逆流が起きて、代替地は火災汚泥とダム湖の水で埋まってしまうと考えられます。そして八ツ場ダムは火砕流の巨大な圧力に耐えられないで、決壊してしまうことが予測されます。天明の大噴火では、

『熱泥流はで26時間で東京・葛飾の金町にまで達して、江戸川の中洲には、上流から多数の遺体が流れ着いた』と記録されています。浅間山の大噴火を考えたら、八ツ場ダムなどは計画出来るはずはないのに、国交省河川部は『浅間山の噴火に関する対策は八ツ場ダム事業とは別の施策』と表明して、八ツ場ダム計画に噴火対策が含まれていない住民無視の縦割り行政の一端を明らかにしてしまいました。八ツ場ダムが住民の安全のために計画されたものでないことがここでも証明されています。

八ツ場ダムは中止しよう

ここまで述べてくると、こんなに、なん重にも危険で、住民を苦しめるダム計画はない方がよいということになります。そうなれば、予定地周辺の貴重な自然と文化財もダムの底に沈まないで残るのです。検討報告書では、湖底に沈む文化財などについては、「調査」と「記録保存」となっていますが、これでは自然や文化財を破壊してしまう行為を別の言葉で述べているに過ぎません。一例ですが、両岸が垂直に高く切り立った吾妻溪谷（国指定名称）を散策している人たちに、『ここがダムに沈んでしまう』と話すと、誰もが顔をしかめます。『国は何をやっているのだ』と慄然とする人もいます。先日亡くなったアフリカのマータイさんの言葉をもう一度噛み締めてみませんか。

誰でもみられる駅前大崩壊

いま、吾妻線の川原湯温泉駅に降りると、駅のすぐ前の巨大な土砂崩れの現場がいやでも目に飛び込んできます。駅から車道一本だけ隔てた、北向きの高い斜面が最上部から大きく崩れて、樹木をなぎ倒し、その末端はこの崖と車道との間に建っている八ツ場ダム総合相談センターに迫っています。センターはやっと難を免れた形で、崩れてきた大量の土砂から10mほどしか離れていません。八ツ場ダムの不要性や危険性を問題にしている人たちが指摘している通りの事実が、ダム本体の着工以前から周辺各地のあちこちで起こっています。しかも、国交省や工事業者はこの状態を早急に元に戻すことも出来ず、まるで『ダム反対の皆さんの言っている通りですよー』といわんばかりに、危険な実態をさらけ出しています。

さらに問題なのは、この崩壊の上部が八ツ場ダム建設で水没する川原湯地区の代替地であることです。移住者の安全は保証されるのですか。未着工のダム本体だけでなく、関連の事業にも、安全面ひとつをとっても、未解決の問題が多いようで、無責任な当局や議員達にまかしておくわけにはいかない緊張した事態が続いています。

私はもう一度、声を大にして要求します。八ツ場ダム計画はいま、ここで、中止にしてください。